

**令和2年度埼玉県西部地域保健医療・地域医療構想協議会  
(地域医療構想作業部会)  
議事概要**

1 日 時 令和2年11月20日(金) 18時30分～20時10分

2 場 所 入間市健康福祉センター 301・302会議室

3 出席者 協議会委員 別紙委員名簿のとおり23名中21名出席  
(代理出席4名を含む)  
部会委員 別紙委員名簿のとおり23名中21名出席  
(代理出席4名を含む)  
委員以外出席者 別紙委員名簿のとおり  
事務局 別紙委員名簿のとおり  
傍聴者 4名

4 議 事

委員の互選により、所沢市医師会長の京谷委員を会長(地域医療構想作業部会含む)に、飯能地区医師会の増島委員を副会長に選出した後、京谷委員を議長として以下の議事を協議した。

(1) 平成30年度病床機能報告の定量基準分析結果について  
資料1-1～1-3により保健医療政策課が説明。

(主な質疑等)

なし

(2) 第7次埼玉県地域保健医療計画に基づく病床整備の状況について  
資料2-1により医療整備課が趣旨を説明。

続いて、以下のとおり各医療機関による説明等が行われた。

① 武蔵台病院

資料2-2により武蔵台病院が説明

② 並木病院

資料2-3により並木病院が説明。

③ 豊岡整形外科病院

資料2-4により豊岡整形外科病院が説明

(主な質疑等)

なし

(3) 医療機能等に変更のある医療機関からの説明について  
各医療機関の説明前に狭山保健所が趣旨を説明。

続いて、以下のとおり各医療機関による説明等が行われた。

① 圏央所沢病院

資料3-1により圏央所沢病院が説明

② 狭山厚生病院

資料3-2により狭山厚生病院が説明。

③ メディカルパーク入間

資料３－３によりメディカルパーク入間が説明

(主な質疑等)

○ 圏央所沢病院について、今回、４５床が増床の許可となっているが、許可された４５床は、回復期で４５床の増床と認識しているがどうか。

→ 回復期の地域包括ケア病床と回復期の療養病床である。

(４) 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について

資料４により保健医療政策課が説明。

(主な質疑等)

なし

(５) 埼玉県地域保健医療計画(第７次)の中間見直しについて

資料５により保健医療政策課が説明。

(主な質疑等)

○ 放射線治療や化学療法は高度急性期と急性期のしきい値が設定されていないということがある。このあたりを見直しの時に考慮してほしい。

→ 趣旨を承り、検討課題とさせていただきたい。

(６) 第７次地域保健医療計画(後期)及び第８期介護保険事業(支援)計画における在宅医療・介護サービス等の追加的需要へ対応するサービス見込み量の調整について

資料６－１、６－２により高齢者福祉課が説明。

(主な質疑等)

なし

その後、全体を総括して地域医療構想アドバイザーが西部保健医療圏の機能別の病床の状況及び課題等についてコメントした。

(地域医療構想アドバイザー)

西部保健医療圏について。回復期では病床稼働率が７７．４％、想定は９０％であるが、県の平均よりは上回っている。また、地域包括ケア病棟の病床稼働８０．４％で、県内では二次保健医療圏では３番目に多い。慢性期の状況では、稼働率は８５．７％で、想定は９２％で県の平均程度。一方で、平均在院日数を見ると２３２日で県の平均は１５９．２日と、これを上回っている。この要因としては、介護療養病床が多く、そこでは平均在院日数が６００．８日と非常に長くなっている。また、地域包括ケア病棟・病床等も整備しているが、これらにおいては自院からだけでなく在宅医療からも受け入れていただきたい。

埼玉県医師会では、「往診・訪問医検索システム」を構築しており、必要な往診、訪問医を紹介するシステムができている。また、在宅医療推進のために、今年の９月から月初めに、１回ずつ在宅医療塾を開始している。緩和ケアも重要であり、緩和ケアの医師との協力体制の推進も検討している。ACPや看取りについても、本人の意思を表示する「私の意思表示ノート」について第２版を３万部作成し配布している。退院支援については、西部地域保健医療圏でも、保健所の協力も得て、入退院支援ルールの作成が行われている。

(７) その他

なし